

星の子通信 2

～チーム星宮小のみなさんへ～

R元年.11.2. No.10

文責 新井麻起



先生方の活躍ぶりや授業等の様子、先生方へのメッセージを載せています。

本校では、学校研究課題として、主題「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善～「見方・考え方」を働かせた「深い学び」への指導方法の工夫～に取り組んでいます。
今回は学校訪問の授業を紹介します。



6年 山田 知紀 教諭 教科 道徳 教材名「米百俵」

この逸話では、長岡藩士たちは、その日の食事にも苦慮していた。そこで支藩から米百俵が送られることになり、米を分配して支給すべしという藩士たちを小林虎三郎が説得し、将来のために人物を養成する学校を建設するという話である。虎三郎と三左衛門の考え方の違いを考えることで、広い視野で物事を捉えることの大切さに気付かせたい。

【導入】

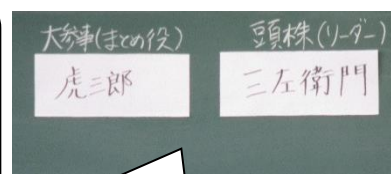


米百俵を村の人数で分けたときの米の量は軽量カップ4.7杯分であることを示す。

【第1発問】

送られた米百俵を売って学校を建てる説明を藩士たちにしたときの虎三郎の気持ちを考える。

【第2発問】



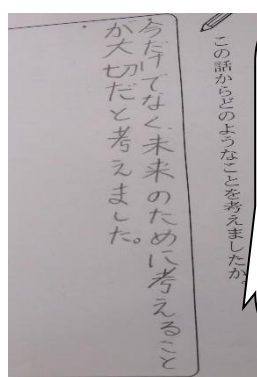
虎三郎と三左衛門の考えの違いを考える。

【第3発問】



「あなたが虎三郎だったら、藩士をどのように説得しますか。」の発問に、ペアになり、虎三郎役と三左衛門役になり、役割演技をしている。

【第3発問】



「この話からどのようなことを考えましたか。」の発問に『今だけではなく、未来のために考えることが大切だと考えました。』という意見が多かった。

【教師の話】



ラグビータウンであり、自分の住む街『熊谷』に誇りをもち、大切にしていきたいと思います。

学校訪問全体を通して

○学習指導案が詳しく書かれてある。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に向けた書き方になっているので、引き続きこの形で作成するとよい。

○『立ち止まって礼』の挨拶の仕方がすばらし

○流しがきれいに磨かれている。

○『全員の児童を全職員でみる』という小規模のよさが活かされている。

△星宮小の学力とは何か各教科に応じて考えていく。

△4月に戻ったように、もう一度学習のきまりやルールを徹底して指導する。